

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0292700192		
法人名	社会福祉法人 福生会		
事業所名	グループホーム「スマイル荘2号館」		
所在地	青森県三戸郡南部町大字塚渡字館13番地13		
自己評価作成日	令和2年9月3日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人青森県社会福祉協議会		
所在地	青森県青森市中央3丁目20-30		
訪問調査日	令和2年10月28日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者全員が90歳以上だが、大きな病気など無く穏やかに過ごしている。基本理念である「ゆったり」「いっしょに」「楽しく」「豊かに」「その人らしく」を踏まえて、利用者一人ひとりに合ったケアを心掛けている。「スマイル荘2号館」は静かで長閑な環境で生活できる場所である。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

90歳以上の方々が入居しており、ゆったりと過ごしている。それぞれのペースでの生活が守られており、住み慣れた地域で穏やかにその人らしい生活が送れるようにとの思いで利用者支援している。浴室にはリフト浴を設置して、利用者が安心して入浴できるようにしている。コロナ禍で外出制限があるが、月1回はサマーパーティーや敬老のお祝い等をし、楽しめる工夫をしている。「1.ゆったり 2.いっしょに 3.楽しく 4.ゆたかに 5.その人らしく」の理念を基に、毎月ケア目標を掲げ、その反省と更新を重ねて、全職員でより良いケアの実践に取り組んでいる。

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き生きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	基本理念である「ゆったり」「いっしょに」「楽しく」「豊かに」「その人らしく」を全職員で把握し、実践している。	「ゆったり、いっしょに、楽しく、豊かに、その人らしく」の理念を基に、毎月のホーム目標を立て、その反省と更新を職員全体で話し合い、日々のケア実践に取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎月ホーム内で行事を行っている。例年、家族や地域との交流会等を行っていたが、今年は新型コロナウイルスの影響で中止となっている。	地域の文化祭に招待を受けたり、年2回ホームでの家族地域交流会を行う等、地域との交流が図られている。現在は、コロナ禍のため行事等を自粛し、感染予防に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	例年であれば地域と交流を行っているが、今年度は新型コロナウイルスの影響により行っていない。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進委員会は2ヶ月に1回行っているが、新型コロナウイルスの影響により、今年は3月以降書面での開催としている。	利用者と家族の代表、町内会代表、役場担当者が参加して開催している。ホームの現状や行事、毎月の目標等を報告し、意見交換を行っている。コロナ禍では委員に書面を送付し、意見や感想の返信をまとめて会議録を作成している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議でホームの活動内容等を報告している。新型コロナウイルスに関する情報提供や衛生用品の在庫状況、感染対策の自主点検等を連携して行っている。	運営推進会議に町役場担当者が参加しており、最新の情報をもらっている。コロナ禍では、感染対策やマスク、手袋、消毒薬の在庫状況等の連絡を密にしている。また、南部町グループホームネットワークでも協力体制が得られている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	マニュアルを全職員が理解している。玄関や居室等にセンサーを使用しているが、施錠はしていない。身体拘束を検討し、家族の同意を得た利用者はいたが、体調不良等により、行っていない。	身体拘束は行わない方針である。マニュアルを作成し、3ヶ月毎の委員会で学習会を開催し、全職員がその内容や弊害について理解を深めている。玄関は施錠せず、出入りが自由にできる。帰りたいという思いを察したときは、話を聞いたり、外に出て気分転換を図る等の対応をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修を実施し、職員が一丸となって虐待の防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修の参加等はできていないが、制度について理解している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時には、重要事項説明書を十分に説明し、疑問点等があれば理解していただくまで説明している。また、変更があった際は、説明して同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時等に状況報告をしたり、意見を聞いたりしている。また、月1回家族へ広報誌を出したり、電話で連絡する等している。	面会時や電話連絡の際に、近況や健康状態を報告しながら、家族からの話が聞けるように働きかけている。運営推進会議に家族代表が参加しており、要望や意見が出せる機会になっている。毎月の便りに写真を載せて暮らしぶりを手書きで添えて伝えている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回スタッフミーティングを行い、本部(事務局)の職員も参加して意見交換を行っている。意見について話し合い、改善やより良いサービスに繋がれるようにしている。	毎月のミーティングでは、各連絡事項や利用者のケア内容、行事報告、事故報告、研修報告、ケア目標の反省等について全職員で意見を出し合っている。共有する場とし、ケア実践につなげている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各職員が向上心を持って日々のケアに努めており、意欲の持てる職場環境の整備に努めている。全職員の健康診断を実施している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実践と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新型コロナウイルスの影響により、研修会が中止になったり参加を見送る等、今年度は外部研修には参加できていない。内部研修(勉強会)は6ヶ月に1回程度行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	例年であれば、管理者が2ヶ月に1回グループホームネットワーク会議に参加し、情報交換を行っているが、今年は2月以降中止となっている。入居に関する情報提供等は定期的に連絡がある。勉強会を年1回行っているが、今年度の開催は未定である。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	現在入居されている利用者は、意思の疎通が難しい方が多く、自己主張がはっきりできない方が多くなっている。コミュニケーションを図り、傾聴する等、利用者寄り添い、安心していただけるようなケアに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスの内容を細かく説明している。介護サービス計画書の作成時に、家族から聞き取りを行い、介護計画に取り入れる等、関係を築いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者と家族の要望を聞き入れている。医療的な要望の場合は、早急に主治医や看護師に連絡して相談する等、必要な対応を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者一人ひとりができることを見極め、些細なことでもできることは自分で行っていたい。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	今年度は新型コロナウイルスの影響により、面会制限や家族交流会を中止する等しているため、例年より行えていない。受診の付添いを必要に応じてお願いしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	アセスメントシートで利用者の生活歴や馴染みの人、場所等を把握している。できる限り支援したいと思っはいるが、新型コロナウイルスやその他の様々な理由から支援できないことが多くなっている。	入居時の聞き取りのほか、日頃の利用者と家族の会話の中から馴染みの方や場所を把握して、希望があれば応じている。電話の取り次ぎや家族との連絡調整等、これまでの関係が継続できるようにしている。コロナ禍の現在は、玄関ドア越しの面会を行う等、感染防止の配慮をしながら支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士でトラブルがあった際は、職員が間に入ったり、席の配置換えをする等の支援をしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて対応できるようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	声掛けを大事にしており、日頃の言動から利用者の希望や意向を聞き出せるようにしている。また、情報は全職員で共有している。	利用者が安心した気持ちで思いを表せるようにコミュニケーションを取っている。ゆったりと受け止め、思いや意向を把握している。困難な場合は、利用者本位に検討するようしており、情報は全職員で共有している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメントに基づいて情報を把握している。また、疑問に思ったこと等は家族に確認する等している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	利用者一人ひとりの状況を観察し、把握できるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者と家族のニーズを把握し、話し合っ3ヶ月毎に見直しを行い、介護計画作成を行っている。	利用者の生活歴や家族、医療機関から得た情報をもとに、現状を反映した具体的な問題提起や解決策が記載された介護計画を作成している。また、利用者の様子が良く分かるモニタリングが計画に活かされている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	経過記録については、介護記録を実践しているかが分かるように、全職員が記録して見直している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者や家族のニーズ全てには対応できないが、要望があればできる限り応えられるように、柔軟な支援に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	新型コロナウイルスの影響により、地域との交流等は行えていない。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月1回、主治医の往診がある。また、協力病院とも連携し、適切な医療を受けられるように支援している。急変時等、受診の必要時は直ぐに対応できることを説明している。	入居時にかかりつけ医の継続について確認している。往診が可能な協力医療機関を主治医とする利用者が多い。月1回の往診と週2回の看護師の健康管理等で安心できるように支援している。受診結果は家族と共有している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週1回、非常勤の看護師が訪問し、状況の報告とアドバイスをもらっている。医療連携の形を取っており、いつでも対応できるようになっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時の情報交換は行っている。主治医の指示で入院となる場合は、家族の意思を確認し、紹介状を持参して受診し、入院している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	現在、利用者様の看取りは行っていない。今後も行わない方針だが、看取りに関する指針を作成しており、対応ができる形式としている。	現在は、看取り介護は行っていない。家族には入居時に重度化や終末期の対応について説明している。状態変化があれば、家族や主治医、看護師と話し合い、入院や転所への支援をしている。看取りに関する指針を明示し、対応について検討している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	例年、救命救急講習に参加していたが、今年は新型コロナウイルスの影響で参加していない。ホームでの訓練も行えていない状況である。急変時の対応等については、話し合いを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回、昼夜の火災を想定した避難訓練を行っている。水害想定での訓練や地域住民等との協力体制の構築等は行っていない。	年2回、昼夜を想定した避難訓練を実施している。近隣法人施設職員や近くに住む職員の協力は得られているが、地域の協力体制は得られていない。災害に備えて、発電機やストーブ、非常食(水、缶詰、乾麺)を用意している。	運営推進会議で、協力の働きかけを検討されることに期待します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様一人ひとりの状況に合わせて、言動を否定せず、十分に話を聞くようにしている。利用者の人格を尊重し、自尊心を損なわないように心掛けている。また、個人情報の取り扱いに十分に配慮している。	言動を否定せず、ゆったりと話を聞くようにしている。利用者にさん付けで呼び掛け、利用者の自己決定の気持ちを大切にしている。声掛けや対応については、毎月の目標の中にもあり、職員間でも注意し合っている。個人情報の取り扱いに配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自身の希望等を表現できない利用者には、日々できる限り寄り添った対応に努め、支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日によっては職員配置が不足気味になることがあるため、状況によっては職員の都合を優先してしまうことがあるが、そのようなことが発生しないように職員同士で注意し合っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月に1回、地域の理容室に来ていただき、散髪を行っている。自分で服を選べる利用者には選んでもらっている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事担当者が利用者の好みや季節の食材を取り入れるなど考慮して献立を作成している。毎食手作りで提供しており、利用者の状況(刻みやトロミ等)に合わせた食事を提供している。	利用者食べたい物や希望の献立を聞いて、利用者の嚥下状況(キザミ食、トロミ食など)に合わせて、手作りの食べやすい食事を提供している。野菜の皮むきや菊花むしり等と一緒にやっている。介助を必要とする方は少ないが、それぞれのペースでゆったりと食事が楽しめるように支援している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	台所の見やすい場所に、利用者の食事に関する情報を一覧にして置いており、一人ひとりに合った食事を提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨きは全利用者が行っている。また、2日に1回入れ歯洗浄剤を使用して、口腔内の清潔保持に努めている。必要時には協力医に連絡し、往診対応を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、時間を見て誘導やおむつ交換を行っている。介助が必要な利用者もいるが、できる限り自分で行えるように支援している。	排泄パターンを把握し、事前誘導しており、日中はトイレで排泄できるようにしている。誘導は静かに声掛けしている。利用者の状況に合わせて、オムツの使用を見直している。夜間は、長時間対応の尿取りパットを使用し、睡眠を妨げない工夫をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分量や運動、排便コントロール等を一人ひとりの状態に合わせて行っている。状態に応じて、主治医や看護師に相談して対応している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた支援をしている	週2回、入浴を支援している。一人ひとり入浴日が決まっているが、拒否があったり体調不良の場合は、声掛けのタイミングを変えたり、日にちを変更している。リフト浴で安心して入浴できるようになっており、必要に応じて職員2人で介助している。	週2回のペースで利用者の希望を聞きながら入浴を支援している。リフト浴が設置されており、安心して入浴できるようになっている。1対1で対応しているが、必要に応じて2人で介助し、安全に楽しめるように支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりに合わせた睡眠時間を確保できるように努めている。不眠傾向の利用者には、主治医と相談して、眠剤を使用している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の情報提供書を職員がいつでも見られるようにしている。お薬カレンダーを活用し、二重、三重に確認する等して、飲み忘れや誤嚥防止に努めている。臨時薬処方の際は、申し送りノートに記入し共有している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者がやりたいことをできる環境を整えて、支援している。洗濯物たたみやチラシをたたむ等ができる利用者には、役割を持っていただいている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルスの影響で通院以外の外出はほとんどできていない。天気の良い日は、玄関先で外の空気を感じていただく等の工夫をしている。	季節を感じる事が出来る行事や敬老会の外食、ドライブ等、利用者の気分転換や楽しみにつながる機会を設けている。コロナ禍のため外出を制限しており、車窓から桜の見物を行うほか、ホーム内で敬老会のお祝いや流しソーメン、サマーパーティーを行う等、工夫して支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ホームで預かって管理しており、自己管理している利用者はいない。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自分で手紙を書いたり、電話をしたりする利用者はいないが、公衆電話を設置しており、希望時に支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホール内の装飾を季節毎に変えており、季節感を出している。また、テレビやソファ等の配置を考慮している。室内はエアコンや床暖房完備で利用者が快適に過ごせるように配慮している。	明るくゆったりとしたホールで、塗り絵やパズル、TV、新聞、読書等、思い思いの所でくつろげるようにしている。ハロウィン等の手作り作品を飾り、季節感を大切にしている。物音や声の大きさ、明るさ、温度、湿度等に配慮し、居心地良く過ごせるようにしている。コロナ禍のため、特に消毒と換気に留意している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールのソファや廊下の椅子等、自席以外にも過ごせる場所を設置している。ホールでテレビを見たり、自席で思い思いに過ごせるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた小物や馴染みの家具やテレビ、時計、写真等の思い入れのある物を持ち込んでいただき、落ち着いた空間になるようにしている。また、誕生日カードや賞状等を置き、その人らしい居室作りを行っている。	使い慣れたものを持って来てもらうように働きかけている。小物家具やテレビ、時計、写真等が置かれている。また、作品やカレンダー、敬老会の賞状等を置き、利用者の状況に合わせて安心して過ごせる、その人らしい居室になるように支援している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレは2ヶ所、洗面台は4ヶ所設置しており、利用者一人ひとりがトイレ利用や整容、口腔ケア等を比較的スムーズに行っている。		